

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL(<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL(<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成16年1月発行

病害虫防除技術情報 NO.15-3

岩手県病害虫防除所

アザミウマ類によるホウレンソウの被害

- ① ホウレンソウにおけるアザミウマ類の被害を現地、及び接種試験で確認した。
- ② 今回確認した種類はネギアザミウマである。
- ③ より適切な防除のために他の主要な2種類の微小害虫との区別を明らかにした。

1 被害の様子

(1) アザミウマによる被害

アザミウマ類は口針を使って表皮に穴をあけ、唾液を注入して中の組織を破壊し吸汁する。そのため被害症状は加害部位により異なり、未展開葉ではその後十分に展開せず萎縮葉になったり、一部がひきつり奇形葉になる(図1中、左)。展開葉では中の組織が破壊吸汁されるため残された表皮がレンズの役目をして、その下の空隙が銀白色に光って見えるシルバリング(銀葉化)を呈する(図1右)。



図1 アザミウマによるホウレンソウの被害

(2) ホウレンソウに加害するアザミウマ類

今回被害を確認したのは久慈市、軽米町、江刺市、花巻市であり、加害種はすべてネギアザミウマであった。西日本ではミナミキイロアザミウマが主要な加害種となっており、北海道ではヒラズハナアザミウマによる被害報告がある。

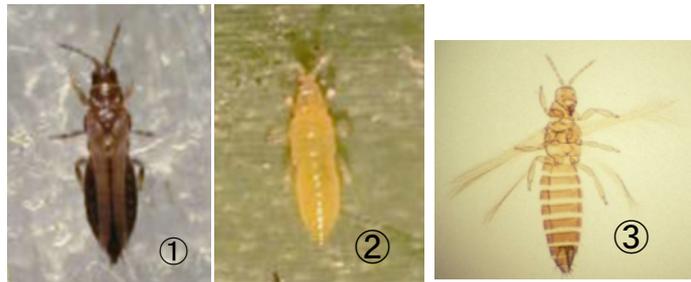


図2 ネギアザミウマ (①成虫②幼虫③プレパレート写真：①②は埼玉県病害虫防除所撮影 ③藤沢原図)

(3) 他の微小害虫による被害

①ケナガコナダニ類

新芽、新葉部に集中して寄生し、加害部は小孔があき周囲の組織、主に成長点付近が褐変することからアザミウマ類やアブラムシ類の加害と異なる。

②アブラムシ類 (ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

主に若い葉に群がって寄生・吸汁する。アザミウマとの被害の違いは、展開葉での被害は加害部位の脱色はみられるが葉の奇形は少なく、未展開葉での被害は、葉が裏側に巻くように縮れる点にある。



図3 ケナガコナダニ類による被害 (後藤原図)

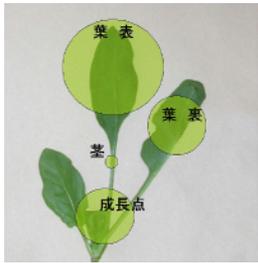


図4 アブラムシ類による被害

2 ホウレンソウの部位別寄生状況

(1) アザミウマ類の寄生状況

アザミウマ類の寄生は葉裏、葉表および成長点でみられ、茎での寄生はほとんどみられない。これはアザミウマ類の加害が成長点における未展開葉および展開葉であることとよく一致する。



(2) 他の微小害虫の寄生状況

ケナガコナダニ類の寄生は成長点のみであり、葉での寄生はみられない。

アブラムシ類の寄生は茎、葉裏、葉表および成長点のいずれでもみられる。

図5 ホウレンソウにおけるネギアザミウマの寄生状況

○の大きさはそれぞれの部位における寄生の割合の大小を示す

3 加害時期

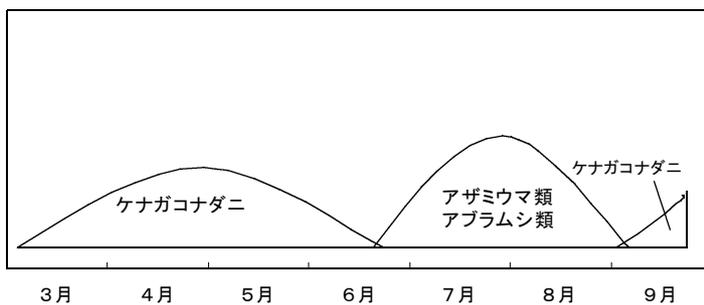


図6 ホウレンソウにおける微小害虫の加害消長（模式図）

(1) アザミウマ類の加害消長

アザミウマ類は6月から加害がみられ、気温の上昇とともに被害は大きくなる。9月になり温度の下降に伴い、ホウレンソウでの被害は減少する。

(2) ケナガコナダニ類

加害は温度の低い春および秋にみられる。多湿で比較的低温条件を好むため冬期のハウス栽培において被害がみられることもある。そのため加害時期から他の害虫との区別ができる。

(3) アブラムシ類

加害時期はアザミウマ類と同じ時期であり、加害時期によるアザミウマ類との区別はできない。

4 防除方法

ホウレンソウにおけるアザミウマ類の発生は、ハウス外部からの飛び込みによるものと思われる。そのため、発生源となりうる周辺雑草を除去するなどの対策が効果的と考えられる。また、外部からの飛び込みを抑制するといわれている紫外線カットフィルムの効果も実証されていることから防除対策として有効である（アブラムシ類も同様）。

ケナガコナダニ類は一般的に、低温性の害虫であり、高温乾燥条件ではほとんど増殖しない。そのため、ハウス内の通風換気をはかるなどの対策が有効である。

対策の内容	アザミウマ類	アブラムシ類	ケナガコナダニ類
雑草の管理を徹底するなど圃場衛生につとめる	○	○	
紫外線カットフィルムの展張	○	○	
ハウス内の通風・換気の徹底			○
農薬の使用	○	○	○